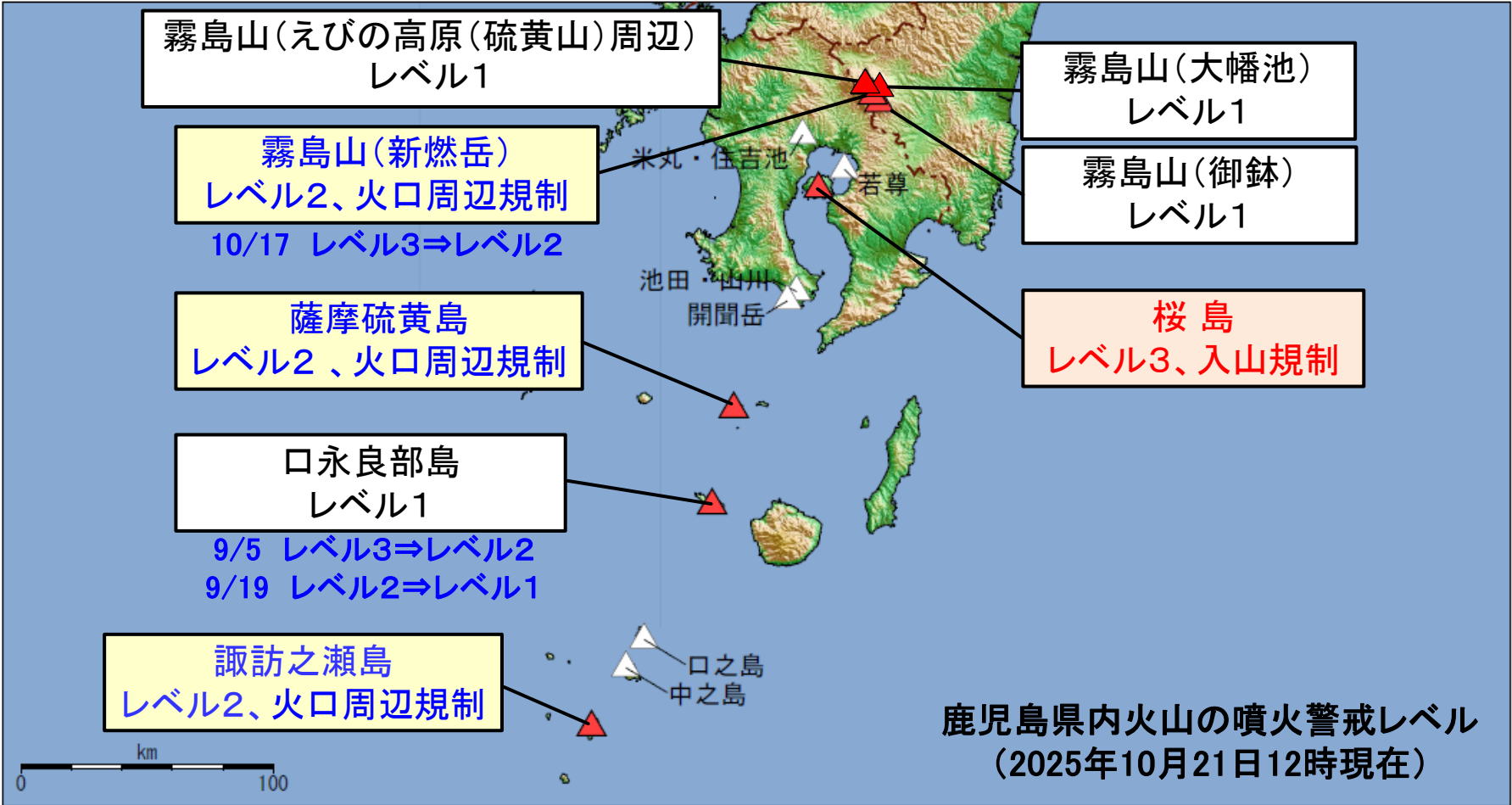


鹿児島県の火山活動概況

2025年9月～2025年10月16日

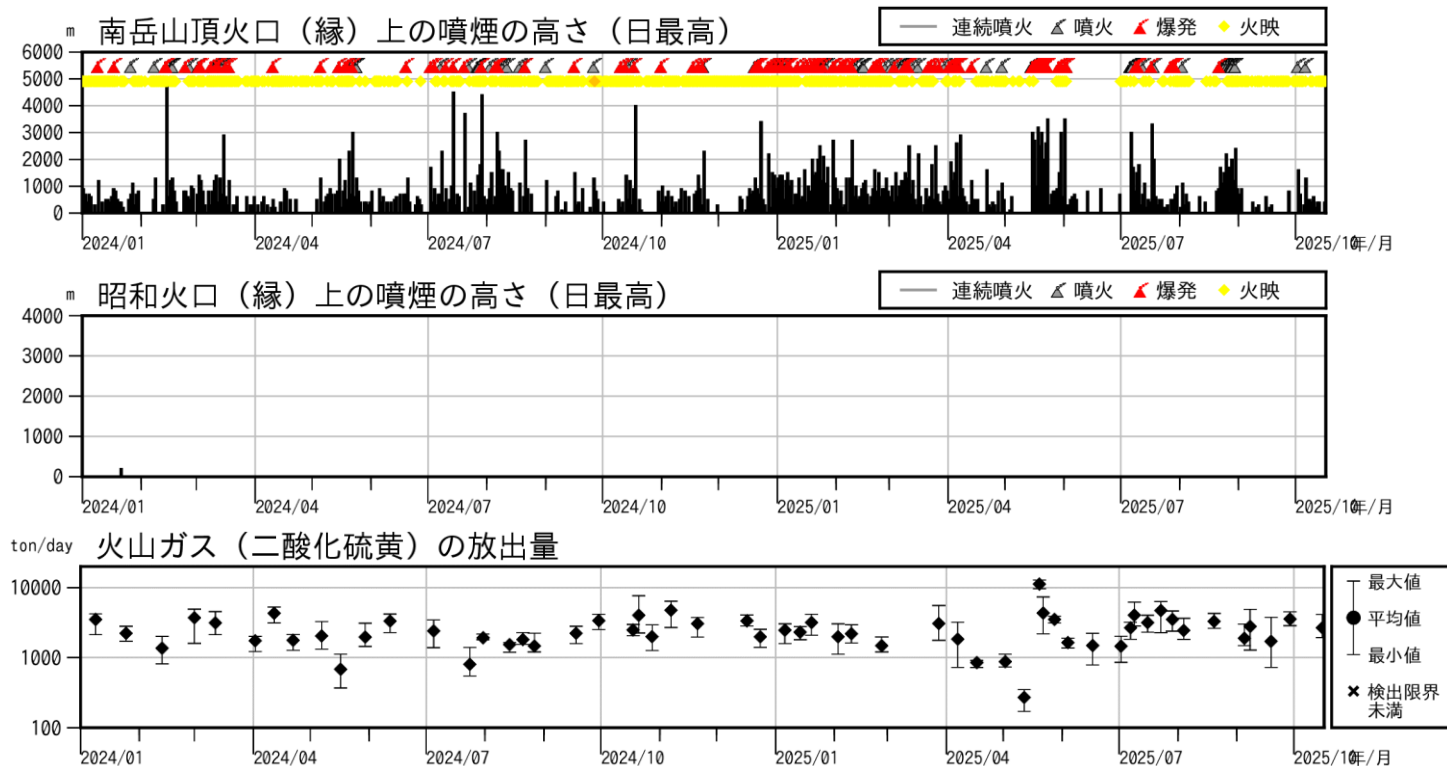


桜島 噴火警戒レベル3（入山規制）

警戒範囲：火口から概ね2km
(2022年7月27日20時00分発表)

9月以降の主な状況

活動評価	始良カルデラ（鹿児島湾奥部）の地下深部にマグマが長期にわたり蓄積した状態であり、火山ガス（二酸化硫黄）の放出量は概ね多い状態であることから、今後も噴火活動が継続すると考えられる
噴火活動	[南岳山頂火口] 噴火回数 10月(16日まで):2回(うち爆発:0回) 9月:ごく小規模な噴火のみ 10月2日16時37分(連続噴火):噴煙の高さは最高で火口上1600m [昭和火口](ごく小規模含め)噴火は発生せず
火山ガス	二酸化硫黄の放出量は1日あたり平均1700~3600トンと概ね多い状態

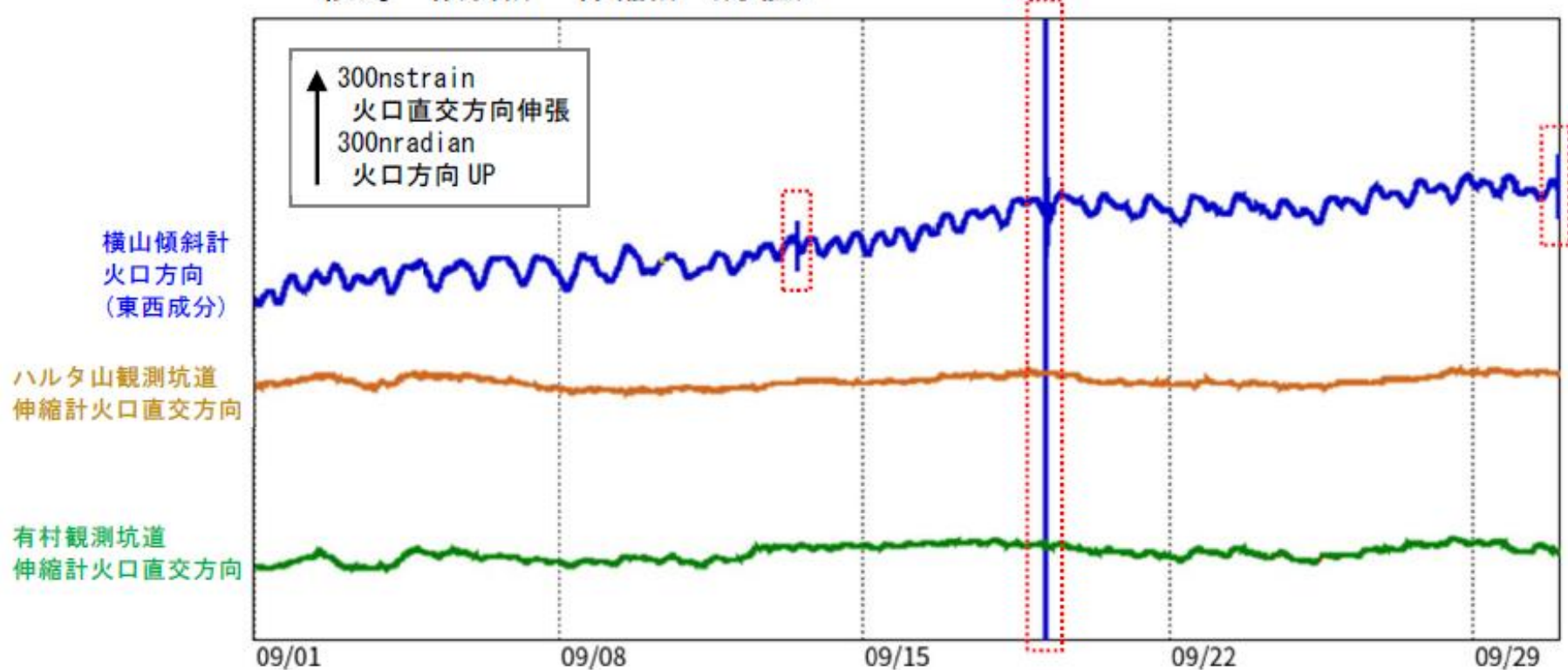


桜島 噴煙・火山ガス活動推移(2024年1月～2025年10月16日)

9月以降の主な状況

傾斜・伸縮 桜島島内の傾斜計及び伸縮計では、火山活動に伴う特段の変化は観測されなかった。

桜島 傾斜計・伸縮計 (分値)



傾斜計及び伸縮計による地殻変動の状況 (2025年9月1日～9月30日)

※各観測点のデータは潮汐補正を行っている。

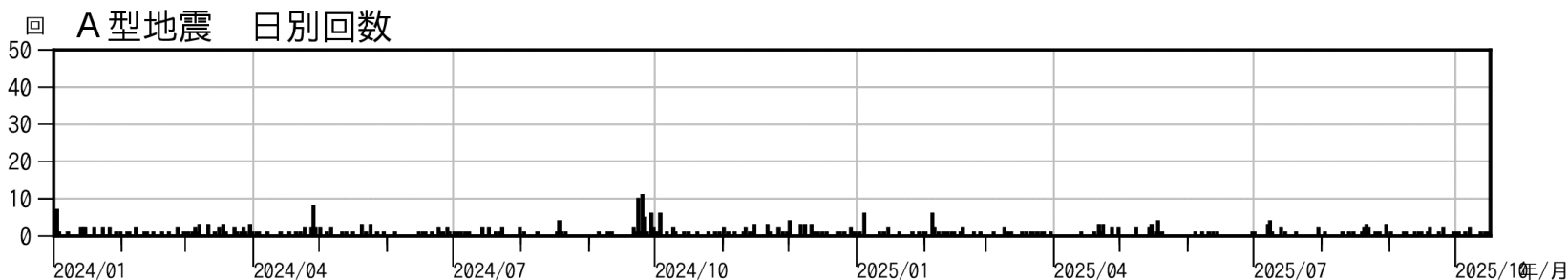
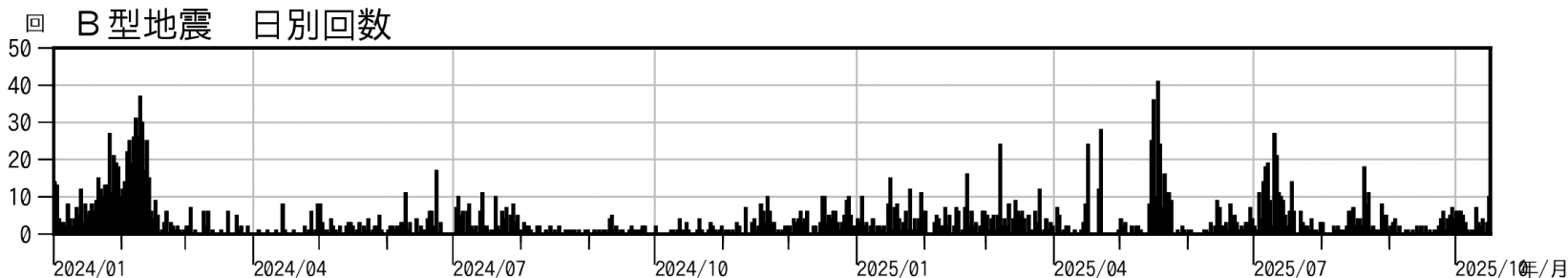
※図の作成には、大隅河川国道事務所の有村観測坑道及び京都大学のハルタ山観測坑道の観測データを使用している。

※赤破線内の変化は遠地地震による影響と考えられる。

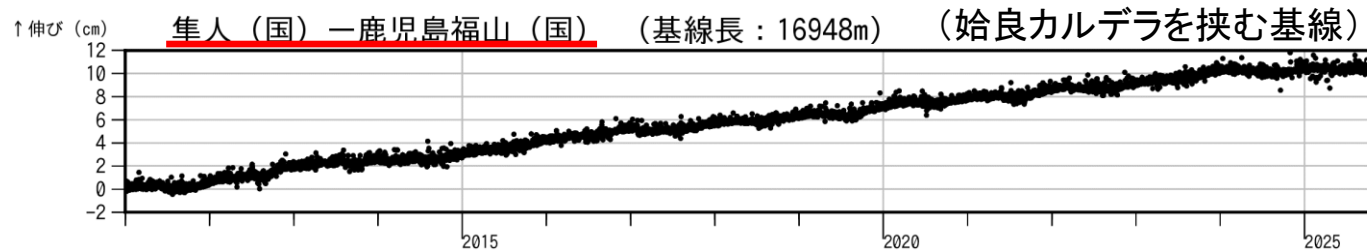
桜島 噴火警戒レベル3(入山規制)

警戒範囲: 火口から概ね2km
(2022年7月27日20時00分発表)

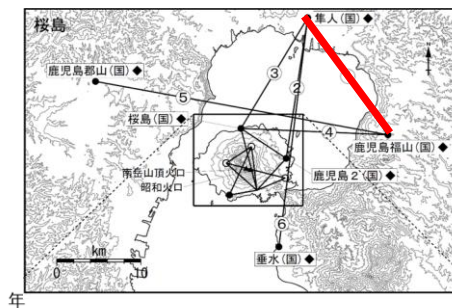
	9月以降の主な状況
震動現象	火山性地震は少ない状態で経過
G N S S	長期にわたり始良カルデラの地下深部の膨張を示す緩やかな伸びがみられる



桜島 地震活動推移(2024年1月～2025年10月16日)



桜島 GNSS基線長変化図(2011年1月～2025年10月16日)

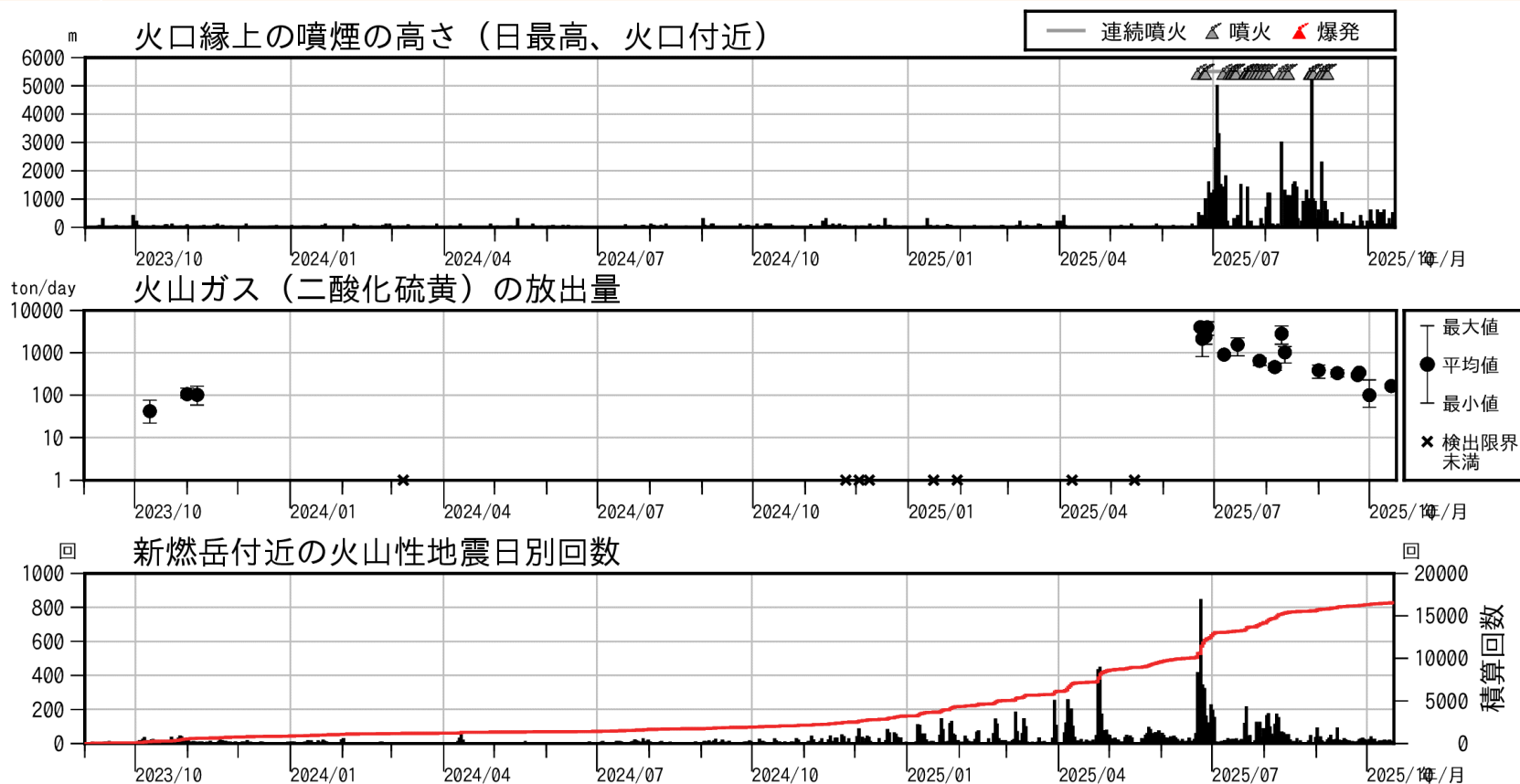


新燃岳 噴火警戒レベル2(火口周辺規制)

警戒範囲: 火口から概ね2km
(2025年10月17日11時00分発表)

9月以降の主な状況

活動評価	火口直下を震源とする火山性地震は多い状態、火口から概ね2kmの範囲では大きな噴石などに警戒
噴火活動	9月8日以降は噴火は発生していない
火山ガス	火山ガス(二酸化硫黄)の放出量は1日あたり平均100~400トンとやや少ない状態で経過
震動現象	火口直下を震源とする火山性地震は9月頃から減少しているが、引き続き多い状態で経過 火山性微動は8月中旬頃から発生頻度が低下



新燃岳 火山活動経過図(2023年9月~2025年10月16日)

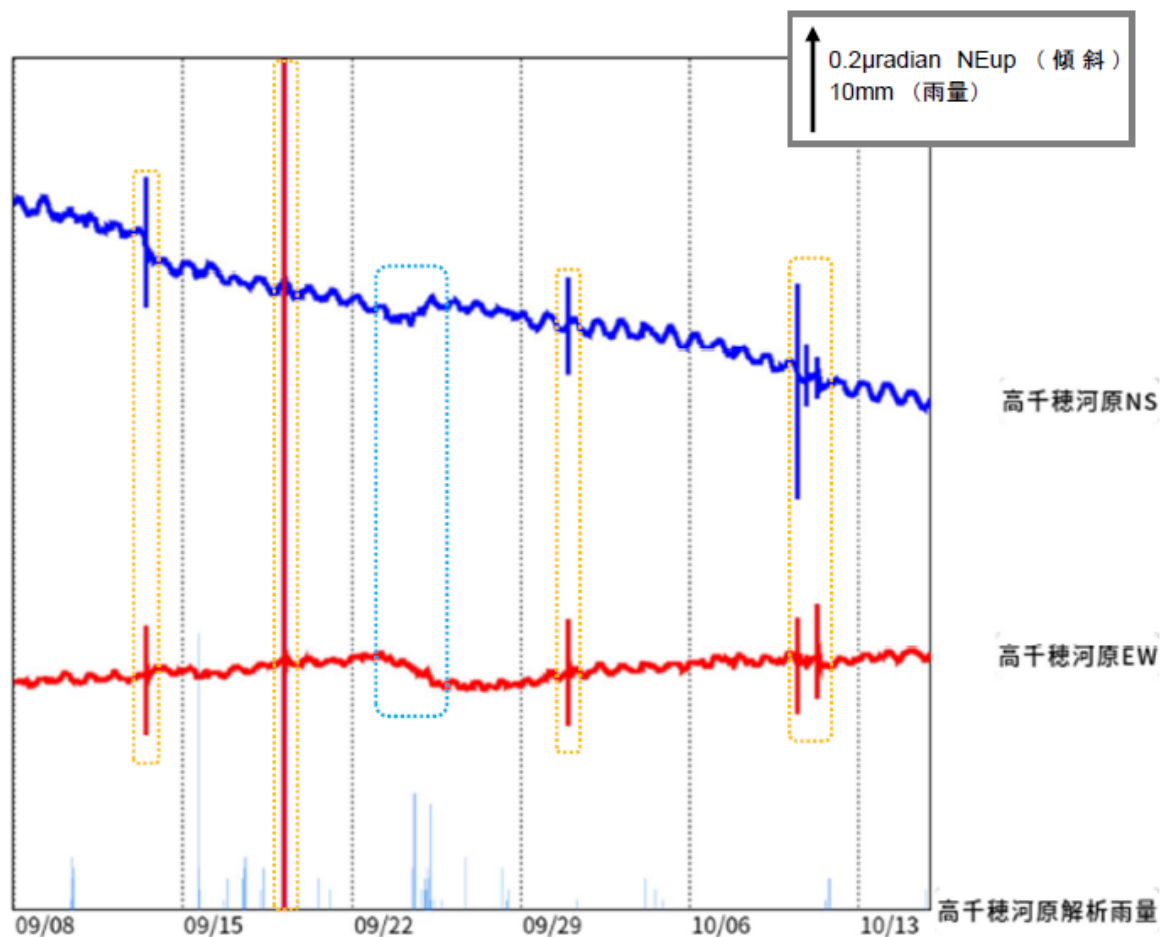
新燃岳 噴火警戒レベル2(火口周辺規制)

警戒範囲: 火口から概ね2km
(2025年10月17日11時00分発表)

9月以降の主な状況

傾斜計

新燃岳周辺の傾斜計では、新燃岳の地下の膨張を示すような特段の変化は認められていない。



新燃岳 傾斜計による地殻変動の状況(2025 年9月8日～10月15日)

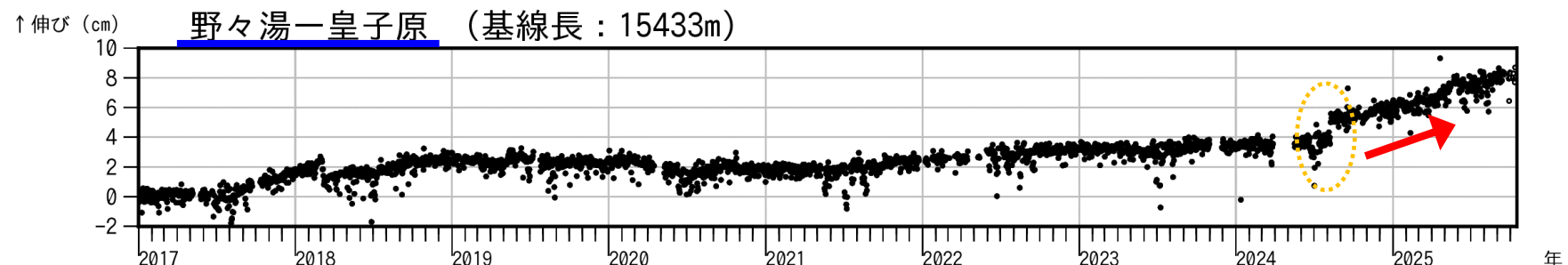
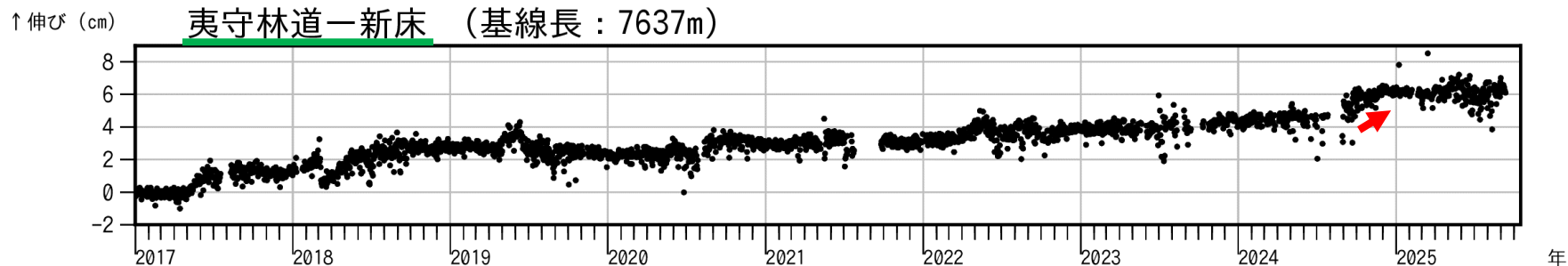
- ※橙色破線内の変化は遠地地震による変動
- ※青色破線内の変化は降水の影響によると考えられる
- ※各観測点のデータは潮汐補正済み

新燃岳 噴火警戒レベル2(火口周辺規制)

警戒範囲: 火口から概ね2km
(2025年10月17日11時00分発表)

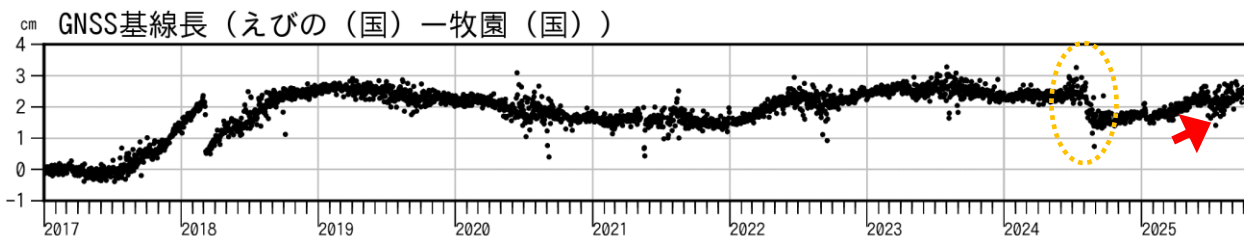
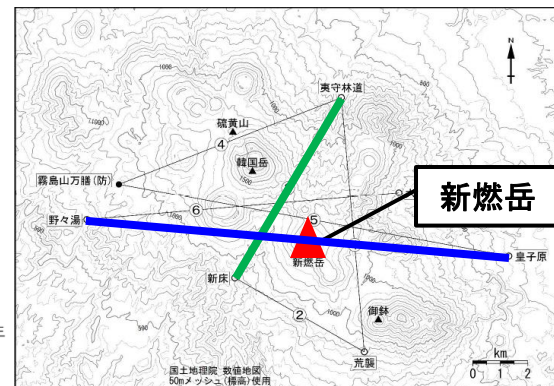
9月以降の主な状況

GNSS 霧島山を挟む一部の基線で、2024年11月頃から新燃岳付近の地下、2025年3月頃から霧島山深部の膨張を示すと考えられるわずかな伸びが認められていたが、7月上旬頃からはいずれも停滞。



新燃岳付近 GNSS 連続観測による基線長変化(2017年1月～2025年10月16日)

※橙色の破線は2024年8月8日の日向灘の地震による変動を示す



霧島山 GNSS 連続観測による基線長変化(2017年1月～2025年10月16日)

※橙色の破線は2024年8月8日の日向灘の地震による変動を示す